

イエスが称賛された「信仰」

(マタイ8:5-13)

一、信仰とは何か？

教会で「信仰」と言う場合は、主イエス・キリストを救い主、また神と信じることです。こうして、神はおひとりなるお方であるけれども、父・子・聖霊として私たちに現れておられるお方である

と信じるようになります。

ですが、きょう開かれたテキストを見ますと、主イエスが百人隊長の語ったことばを指して、こうおっしゃいました。10節です。イエスはこれを聞いて驚き、ついて来た人たちに言われた。

「まことに、あなたがたに言います。わたしはイスラエルのうちのだれにも、これほどの信仰を見たことがありません。」と。神の子であり、神が人となられた主イエス・キリストが、そのようにおっしゃったのです。ここに登場する百人隊長は異邦人です。ユダヤ人ではありません。ローマの軍隊の歩兵百人を率いる指揮官です。ルカの福音書7章の並行箇所によれば、イスラエルを愛し、自ら会堂を建てた人だったようです。しかし使徒の働き10章に登場するコルネリウスのような、ユダヤ人が信奉する神を敬う人ではなかったと思われず。

主イエスは、百人隊長の「何」を指して「信仰」と語られたのでしょうか。10節の始めに「イエスはこれを聞いて驚き、ついて来た人たちに言われた。」と

ありますので、その直前のことば、ないしは振る舞いを指して、「信仰」とおっしゃったことが分かります。というわけで、その前の節を見てまいります。9節です。へと申しますのは、私も権威の下にある者だからです。私自身の下にも兵士たちがいて、その一人に『行け』

と言えば行きますし、別の者に『来い』と言えば来ます。また、しもべに『これをしろ』と言えば、そのようにします。とあります。このことばのどこに「信仰」があるのでしょうか。主イエスがおっしゃったことばの意味を知るためには、5節まで遡って見て行く必要があります。5節、6節をご覧ください。イエスがカペナウムに入られると、一人の百人隊長がみもとに来て懇願し、「主よ、私のしもべが中風のために家で寝込んでいます。ひどく苦しんでいます」と言っています。とあります。懇願し、とありますから、癒やしを求めたみもとにきたことが分かります。主イエスは、異邦人の百人隊長に言われました。7節です。イエスは彼に「行って彼を治そう」と言われた。と。すると百人隊長は答えました。8節です。へしかし、百人隊長は答えた。「主よ、あなた様を私の屋根の下にお入れする

資格は、私にはありません。ただ、おことばを下さい。そうすれば私のしもべは癒やされます。」と。信仰とは何なのでしょうか。自分のしもべを自分自身のように大切にすることなのでしょうか。他者を大切にすることは良いことですが、それが信仰ではありません。では、信仰とは、主イエスに敬意を払い、

の信じたとおりになるように。」すると、ちよどそのとき、そのしもべは癒やされた。」とあるからです。しもべが癒やされたという「あかし」は、後に百人隊長が教会で話したから、福音書に載ったのであります。

二、信仰の中心は？

「主よ、あなた様を私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません」と、へりくだることなのでしょうか。ちがいます。

答えは、8節後半から9節にあります。へただ、おことばを下さい。そうすれば私のしもべは癒やされます。と申しますのは、私も権威の下にある者だからです。私自身の下にも兵士たちがいて、その一人に『行け』と言えば行きますし、別の者に『来い』と言えば来ます。また、しもべに『これをしろ』と言えば、そのようにします。」にあります。この時点で、百人隊長が主イエスをどのように認識していたかは不明です。分かることは、百人隊長が、神の遣わされた御子であり、神ご自身であった主イエスが語られたことばに権威を見いだし、服従したことでした。時間的には前後しますが、この異邦人の百人隊長は、主イエス・キリストを信じてキリスト者になり、教会に連なったと思われ

ます。13節に、へそれからイエスは百人隊長に言われた。「行きなさい。あなた

神のことばを信じるとは、神が遣わされた主イエス・キリストを信じることです。これを受け取り損ねて、「あなたの信じたとおりになるように」と信じるのが信仰であるとし、夢が実現する姿を思い描いて聖書を読むとするなら、まっすぐに読んでいるとは言えません。たしかに将来を思い描いて希望を持ちますと、キリスト者であろうがなかるうが、あるいは信仰を持つことが持つまいがそうなります。それは、創造主によって、私たちに人間に備えられた特性です。だからと言って、これを信仰と呼んでしましますと、弊害が出てまいります。聖書のことばを曲解することになるからです。

私たちは聖書のどこを開こうか、読もうか、神のことばの中心を捉える必要があります。そうであるなら、「百人隊長は主イエス・キリストのことばを聞いて信じることにより、しもべは癒やされた。百人隊長も罪から救われてキリスト者になり、教会の一員になった」と読むべきです。